

～めざそう 災害に強い土岐川・庄内川～

平成29年 4月14日

国土交通省中部地方整備局

庄内川河川事務所

「平成29年度 小里川ダム放流連絡会」を開催します ～大雨時における関係機関との連絡体制を確認～

小里川ダムでは、適切な防災操作を行って、下流域の関係機関との的確な連絡・調整を取りながら浸水被害を未然に防いでいます。

小里川ダム放流連絡会は、放流等に関する情報の連絡体制の確認を目的に、下流域にある関係機関の県・市・警察・消防・中部電力の防災担当者にご参加いただき、降雨が多くなる前のこの時期に毎年開催しているものです。

当日は、ダムの仕組みや役割についての知識をより一層深めてもらうため、小里川ダム堤体内部の見学会や設備の説明を行います。

1. 日時 平成29年 4月21日（金） 14時00分～15時00分
*会議終了後、希望者を対象にダム見学を実施（15時～16時予定）
2. 場所 小里川ダム管理支所1Fロビー（岐阜県恵那市山岡町田代1565-21）
3. 内容 議事次第（案）（別紙1）参照
4. 参加機関 小里川ダム放流連絡会構成機関（別紙2）参照
5. 添付資料 議事次第（別紙1）、小里川ダム放流連絡会構成機関（別紙2）、取材登録書（別紙3）、昨年度開催資料、小里川ダム諸元資料
6. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、多治見市政記者クラブ、恵那記者会
※取材について 現地取材を希望される報道機関におかれましては、4月20日（木）16時迄に 別紙「取材登録書」をFAXにて提出をお願いします。

【問い合わせ先】

庄内川河川事務所	小里川ダム管理支所長	白江 健造
庄内川河川事務所	副所長	松原 充幸
電話	小里川ダム	(0573) 59-0056
	庄内川河川事務所	(052) 914-6711
FAX	小里川ダム	(0573) 59-0058
	庄内川河川事務所	(052) 915-5093

平成29年4月21日(金)
於：小里川ダム管理支所

平成29年度 小里川ダム放流連絡会 議事次第(案)

1. 開会あいさつ
2. 議事次第
 - (1) 放流連絡会規約及び委員名簿の確認
 - (2) 小里川ダムの概要・防災操作の特徴・昨年度の放流実績
 - (3) 放流通知・情報の流れ
 - (4) 防災操作実施中の情報提供
 - (5) 平成29年度ダム管理演習の実施について
 - (6) その他(小里川ダムの取り組み等)
3. 閉会
4. その他
 - ◇ ダム見学(希望者のみ)

小里川ダム放流連絡会構成機関

構 成 機 関
岐 阜 県 恵 那 土 木 事 務 所
岐 阜 県 多 治 見 土 木 事 務 所
恵 那 市 役 所
瑞 浪 市 役 所
土 岐 市 役 所
多 治 見 市 役 所
瑞 浪 市 消 防 本 部
多 治 見 警 察 署 瑞 浪 交 番
中部電力(株)加茂電力センター 川 辺 土 木 管 理 所
国 土 交 通 省 庄 内 川 河 川 事 務 所

平成 年 月 日

「平成29年度 小里川ダム放流連絡会」取材登録書

「平成29年度 小里川ダム放流連絡会」について、取材をご希望の報道機関におかれましては、事前にご登録をお願いいたします。

FAX 送信期限：4月20日（木）16時00分

1. 報道機関名 _____

2. 取材者等

(1) ご氏名 _____

(2) 連絡先 TEL _____

(3) 取材人数 _____ 人

(4) 取材車両
の種類等 _____

3. 送信先 (FAX) 0573 - 59 - 0058

4. 問い合わせ先

庄内川河川事務所
小里川ダム管理支所長 白江 健造
電話 (0573) 59-0056

平成28年度 小里川ダム放流連絡会を開催しました

昨年度の様子

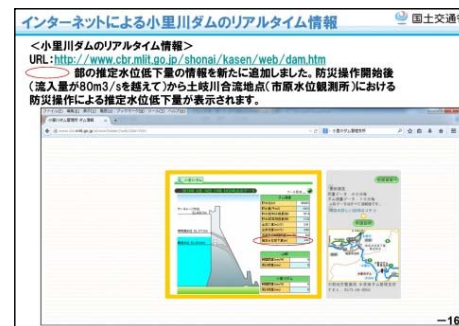
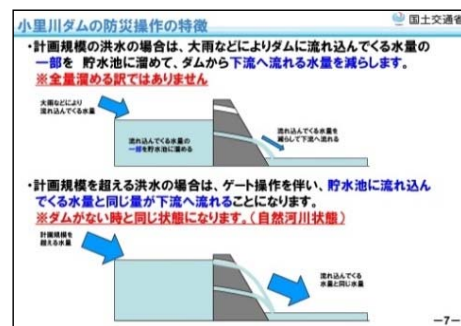
平成28年4月22日（金）、「平成28年度 小里川ダム放流連絡会」を開催しました。

小里川ダムからの大雨時における放流等に関する情報の連絡体制の確認を目的に、ダム下流域の市町村・警察・消防等の防災担当者にご参加いただき、降雨が頻繁になる出水期前に毎年開催しているものです。会議では、小里川ダムの役割や防災操作といった基本的な紹介に始まり、非常事におけるダムや河川のリアルタイムの情報提供やダムからの発信される情報の具体的な内容についての説明を行いました。



石川事務所長による開会挨拶

大雨時に備えた連絡体制や情報提供の状況について関係機関へ説明。



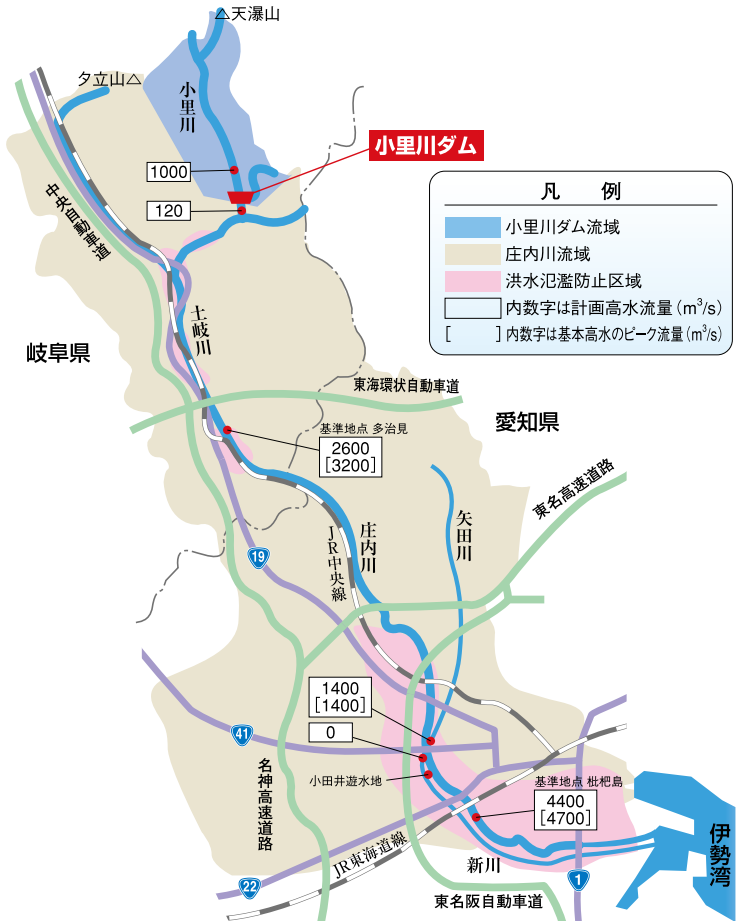
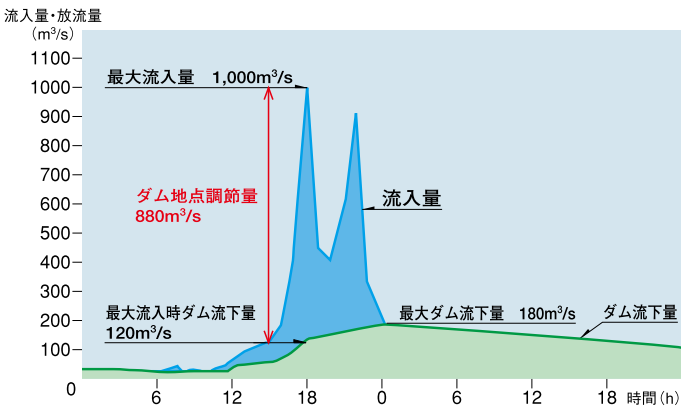
- 参加機関
- ・岐阜県恵那土木事務所
- ・岐阜県多治見土木事務所
- ・恵那市(危機管理チーム)
- ・瑞浪市(生活安全課、土木課)
- ・土岐市(監理用地課)
- ・多治見市(道路河川課)
- ・瑞浪市消防本部
- ・多治見警察署(瑞浪交番)
- ・中部電力(株)加茂電力センター
- 川辺土木事務所
- ・庄内川河川事務所

当日配布資料(一部):小里川ダムの洪水調節の仕組みやダムのリアルタイム情報の確認方法を知って深めていただくことで、非常時の的確な対応に繋げることが期待できる。

小里川ダムには 3つの目的があります。

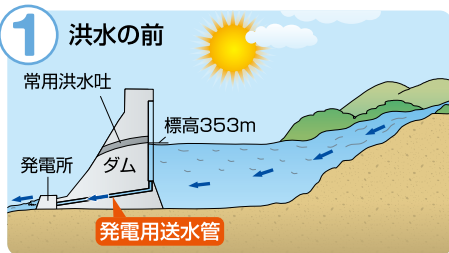
小里川ダムは、庄内川水系の支川、小里川の岐阜県恵那市山岡町と瑞浪市陶町にまたがる位置に、多目的ダムとして建設されました。防災操作と河川環境の保全などのための流量の確保、並びに発電を行うことを目的としています。型式は、重力式コンクリートで堤高114m、総貯水容量1,510万 m^3 、有効貯水容量1,290万 m^3 、自然調節方式(洪水期間はゲートを開放)で管理しています。

■洪水調節図

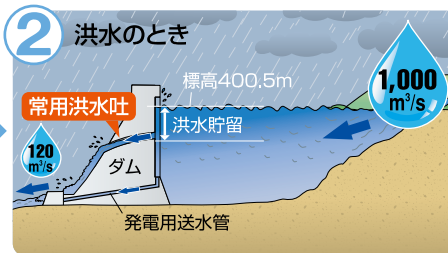


1 水害を減らす

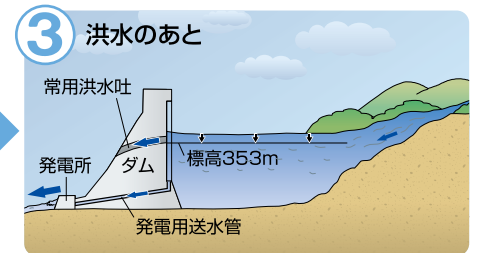
ダムの上流で大雨が降ると川の水量が増えます。そのため、下流の川があふれないように小里川ダムで洪水貯留を行います。計画高水流量1,000 m^3/s を120 m^3/s に川の増水を緩和し、東濃地域、尾張地域の水害を減らします。



いつもは標高353mまで水を貯めています。ダム湖の水は発電用の送水管を通して下流に流れます。



大雨になると、ダム湖に水が貯まりはじめ常用洪水吐から流れ出します。さらに大雨が続くとダム湖にどんどん水が貯まり、下流には少しずつ水を流し、洪水を貯留します。



雨がやんだら、次の大雨に備え、ダム湖の水位を①の通常の時の水位に徐々に戻します。

2 川の環境を守る

川の水量が極端に少なくなると川の生き物などがすみにくくなってしまいます。また、川の水は昔から流域の人々に使われていますが、川の水量が少ないと安定して水を取ることができなくなります。そこで、川の水を補うため、ダムに貯めた水を下流に流します。



3 電気をつくる

中部電力(株)によってダム下流の真下に設けられた発電所で、最大使用水量3.0 m^3/s を利用して、最大出力1,800kWの水力発電を行います。これは、一般家庭で約600世帯分の電力となります。

